

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なっ

2月号

vol. 144



「上昇志向」
聖天下1丁目付近にて撮影

特集 教える育てる

西成ライン

第二回 地域との連携の先へ

教える育てる 西成ライン

学校や保育所、NPO など「子ども」に関わる様々な機関の連携が独自のかたちで展開してきた西成区。その連携＝ラインのこれからを手探りしていきます。

第二回 地域との連携の先へ

スマイルゆくとあいの事業の柱に「人材育成」がある。地域の子どもたちには、職員や関係者とのつながりの中で成長し、学力を高めて高校や大学を卒業し豊かな人生を歩んでもらいたい。その一環として小学生の居場所事業をNPO法人FAIRROAD(本誌136号にも掲載)に委託し、2017年から「やってみよう屋」を実施している。

ゆくとあいでは、子どもたちの居場所としてカフェや2階の運動スペースを開放していた時期もあった。しかし、自由勝手に遊ばせているだけで目的やルールもなく、様々なトラブルが発生していた。やはり大人がしっかりとカリキュラムを作って決めたルールの中で子どもと一緒に何かをすることが必要だと感じていた。現ス

タッフに子どもらと長く付き添えるような余裕はない。そう悩んでいた時に阪上由香さんが代表を務めるフェアロードと知り合った。

最近、子どもや若者支援の現場で、彼らの言動の背景にある生活環境や学校での問題、友達関係などを丁寧に見定め支援する人たちが増えてきたように思う。私たちがこれまで進めてきた「同和教育」と同じ思いを多くの人たちが抱いていることに喜びを感じている。代表の阪上さんはそうした人物の一人。彼女のように子どもや青年に対して情熱を持っている人たちの協力を得て課題に取り組む事はとても大事だし、私も深く共感するところがある。そこで、阪上さん自身の活動の原点と目標を語っていただいた。

寺本良弘

▼ 課題を抱える若者たちとの出会い

大学時代にアルバイトをしていた東淀川区の学習塾で不登校や発達障害を抱える生徒たちと出会い、「若者を取り巻く環境」のいびつさに気づいたのが、私の活動の始まりです。

卒業後は大阪市内の学習塾に就職し、課題を抱えるたくさんの方の若者たちと出会いました。ひとり親家庭の子、やんちゃな子、不登校の子、朝鮮学校の子など、家庭や地域、学校内でのトラブルが絶えず、いろいろな関係性が崩れている若者たちでした。

どんなに授業内容を工夫しても成績が上がらない、宿題もしてこない、塾前で喫煙する、バイクで塾に来る、自傷行為をする、保護者と連絡がつかない、月謝は未納、学校には行かない、でも塾には来る……成績を上げられなくて悔しい思いばかりの毎日。

「ご家庭は何を考え、何に期待して塾に通わせているのかを知りたくて」「もうなんでもええから、まずはおいで」と、授業は早々に切り上げ、時間の8割をとことん彼らの話を聞くことに費やしました。すると、衣食住が整っていない家庭、規則違反や授業妨害など荒れる生徒をなんとか抑えようとする先生(学校)、「朝鮮学校だから」と石を投げってくる地域の子ども、排除する大人などが見えてきました。

彼らには「勉強」より「安心・安全な場所」が必要だったのです。

それからはまず彼らの思いを受け止めることに徹底しました。すると、課題を抱える生徒や、いわゆる問題行動が多かった生徒が「で、なにしたらええん?」「勉強したるわ」「授業ない日も自習しに来ていいん?」と机に向かいだしたのです。成績が急上昇!とはいきませんでしたが、各々自分で決めた道を進んでいきました。



2014年に(株)officeドーナツトックが運営されている西成高校内の居場所事業」となりカフェ」に関わり始め、今ではNPO法人FAIRROADとして大正区の泉尾・大正白稜高校、港区の市岡中学校、箕面市の箕面東高校の3校で「中退防止」や「個別のソーシャルワーク」を目的とした学校内居場所

を提供しています。真正面から向き合うことで見えてきた「問題行為」をサインと受け取るのか、排除するのか。私はこのまま雨漏りのように落ちてくる課題をマンパワーで対処し続けるのではなく、社会的な課題としてアプローチしようという覚悟を決め、今の活動に至っています。

「連携」という聞こえの良さに隠れた「穴」に若者たちが落ちてしまわないように、時代の流れに合った学校と地域と雇用のつな

阪上由香

こうして沈潜していく若者を防ぐために行政は税金を投入して「学校・家庭・地域の連携」を目的とした立派なネットワークを作るのですが、「弱い家庭」はそのネットワークにたどり着けず、サービスを受け入れる余裕がな

きまず。ではどうすればいいのでしょうか。「連携」は情報共有とスムーズなソーシャルワークを目的としてそのまま機能させ、課題を抱える若者へは「学校内」で「安心・安全な場所」を作って「個別」に対応すればいい、と私は考えてい

ます。2014年に(株)officeドーナツトックが運営されている西成高校内の居場所事業」となりカフェ」に関わり始め、今ではNPO法人FAIRROADとして大正区の泉尾・大正白稜高校、港区の市岡中学校、箕面市の箕面東高校の3校で「中退防止」や「個別のソーシャルワーク」を目的とした学校内居場所

を提供しています。真正面から向き合うことで見えてきた「問題行為」をサインと受け取るのか、排除するのか。私はこのまま雨漏りのように落ちてくる課題をマンパワーで対処し続けるのではなく、社会的な課題としてアプローチしようという覚悟を決め、今の活動に至っています。

彼らは教育(学ぶこと)が人生を自分で作っていくために必要であることをよく知っていたのです。まずは「やってみようやー」

彼ら若者たちと信頼関係が築けるとその保護者との関わりにも変化が現れてきました。「先生に話すことやないんやけど」「今日23時頃塾で会えます?」「月謝もうちょっと待ってな」と、月謝が未納だったご家庭や連絡がつかなくなったご家庭から連絡が入るようになったのです。

別れた旦那の借金を肩代わりしている、母子(父子)家庭でパートを三つ掛け持ちしている、お酒がやめられず辛い、息子の不登校がしんどい、(役所に申請する)手続きの方法がわからない、など夜遅くの懇談や電話が相次ぎました。塾の人間が対応するケースではないと思いますが、知ってしまったからには仕方ない。「わ

たしもわからんけど、一緒にやってみましょか」と時間が許す限り保護者の課題とも向き合いました。当時は福祉に関する知識も経験も浅く、反省ばかりの動き方でしたが、すっきり解決しなくても保護者の表情が明るくなっているのを見てとれました。課題が複雑化して動けなくなり、課題を抱える「弱い家庭」には「余裕」がありません。正論や助言は心に「余裕」がある人にしか届かないのです。とことん子どもを信じて関わるなどの「一歩踏み出せる仕掛け」を作って、あとは待つ。どんな悩みも軽視せずに全部ひっくり返して「一緒にやってみようや」と言ってくれる人(ななめ関係の人)がその次の一歩を進めます。

その人自身がそうありたい、そうあるべきだと思っている姿と実際の姿にはズレがあり、しんどい時にある人ほどそのズレを意識して悪循環に陥り、奥へ奥へと隠れてしまっています。真正面から向き合うことで見えてきた「問題行為」をサインと受け取るのか、排除するのか。私はこのまま雨漏りのように落ちてくる課題をマンパワーで対処し続けるのではなく、社会的な課題としてアプローチしようという覚悟を決め、今の活動に至っています。

設置当初の「学校制」は、知識の習得の結果として職業選択の可能性の拡大や就職、金銭収入といった希望ある将来を子ども達にもたらす機関・制度でした。しかし、高度経済成長期から1990年代までの学校と企業の繋がりを重視する「学校経由の就職」機能が弱まると、学校は憧れの場所ではなく強制進学のもとになってしまいました。

2017(平成29)年の大阪府高校(全日制課程)中途退学者数は1657人(全体の1.4%)、不登校生徒数は3160人(前年度より155人減)で在籍者数に占める割合は2.7%。小中学校の不登校児童生徒数は14万4031人で過去最多を記録しました。決して少ない数ではありません。この年2月に施行された教育機会確保法によりフリースクールなど学校以外で学ぶという選択肢も認められたため、「学校復帰」という一択ではなくなっ

たことも背景にあります。しかし依然として「学校」は中退した子どもには関与しませんし、居住地域の行政への引継ぎやフォロワーの仕組みがありません。課題を抱える「弱い家庭」は頼れる人も地域との接点も少ない上に、保護者自身も経験が少ないため、必要な助言や情報に接することもできません。その結果、学歴にコンプレックスを抱えたまま自己肯定感が底をつき、学力もないため、不安定な雇用を綱渡りしてい

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

鶴見橋商店街唯一のインド・ネパール料理店

今回は商店街には少し珍しい、インド・ネパール料理のお店「ダイヤモンドスター」をご紹介します。鶴見橋商店街の1番街にあり、店内にはインドの音楽が流れ、内観もまるでインドにきたような雰囲気。店員さんも取材を快く受け入れてくれた。

「ダイヤモンドスター」のウリはなんととってもカレーとナン。ランチの時間にお邪魔し、おすすめを尋ねたところ、「ディーエスランチ」がおすすめとのこと。まずはサラダとスープが運ばれてきた。サラダには鮮やかな赤色のドレッシング（人参かパブリカかな？）がかかっていて相性抜群。

カレーは日替わりカレー、チキンカレー、チキンカレー、キーマカレー、の4種類から選べて、辛さはお子様用から激辛までの7段階。この日はチキンカレーのやや辛口をチョイスしてみた。そして写真を見てのとおり、なんといつ



てもナンがとて大きい。プレートから余裕ではみ出している。外はカリッ、中はフワッとありきたりな表現だが、カレーによく合っておりおいしい。タンドリーチキンもついてきて、ピリ辛でご飯のお供にピッタリ。ボリューム満点で満腹になった。

また、食後にはドリンクがついてきてチャイやラッシーも選ぶことができる。

今回はランチの時間に取材をさせていただいたが、夜のメニューもおい

場所は西成区松2丁目3の13、目の前には橋小学校がある。

敷津松之宮西成旅所は別名、「敷津松之宮西成社」「敷津松之宮御旅所」とも言い、浪速区の敷津松之宮の境内末社となっている。名前の由来としては、神功皇后が武内宿禰（たけのうちのすくね）に従え、三韓征伐より帰朝し、住吉大社から敷津浜を航行中、荒波が打ち寄せられている敷津浦を見て、「今より後は、ここを境として潮満ちよすことなかれ」と安全祈願し、松の木を3本植え素戔嗚尊を祀つ



た、ということである。はじめは「松本の宮」と呼ばれていたが、明治維新のころは「八坂神社」とされていたそうだ。

主祭神は素戔嗚尊と大國主命。この他に奇稻田姫命や八王子命、事代主命、少彦名命も祭神とされている。

また、縁結びのご利益がある神社としても知られており、多くの方が訪れているという。男女の縁だけでなく、友人など幅広い縁を結ぶ。お参りの際にはご利益をもらってみたいはいかがだろうか。

普段は気にせず素通りし、行くとすれば祭か初詣ぐらいの近所の神社。そんな感じで日頃からあまり行くことのない神社に由来する深い意味合いや歴史を知る機会は少ない。改めて西成区のまちはたくさんの歴史に溢れていると感じた。そのためにもまずは知ることが大切。普段から目にするものをちょっとでも調べてみることで新たな発見になり、面白いと感じるようになる。

文責…山村裕太・寺島史視

しそんなものがたくさんあり、ドリンクもネパールのビールやインドのワインなどがあったのでぜひ行ってみよう。本場のカレーを堪能したいときには、ぜひ足を運んでみてください。ランチメニューは8種類から選べるので、その日のお腹の空き具合でお決めいただければよいかと。

ダイヤモンドスター

住所…大阪市西成区鶴見橋1の6の13
電話…06-6632-8881
営業時間…ランチ11:15時~夜17:22時30分
定休日…毎週月曜日の15:00~

一度は行ったことのある神社

今回ご紹介する「敷津松之宮西成旅所」。初めて名前を聞く人も多いかもしれない。こは、毎年7月中旬に2日間行われる松之宮の夏祭りの際にお参りする境内である。「松之宮神社」という愛称で呼んでいたため、正式な名前を今回、初めて知ることとなった。



【田岡秀朋】正月スポーツで帝京の10連覇、青学の5連覇の記録がストップした。政治では亥年現象で自民党の苦戦を予想する人もいる。今年は一強試練の年かもしれない。



【佐々木敏明】老いの鰻飯探す冬の鰻のありか 孤老座す思案の果てのベンチ冷えセキレイや尾あげさげし渡る歩道



【沖田一志】PCの画面に「エラーが〇〇件見つかった」「システムが破損」「更新が必要」といったメッセージが表示された経験ありますか？フィッシング（詐欺）サイトに誘導されるので注意！です。



長野公園に勤務するわたくし大門が、勤務地やMyフィールドに棲む生き物の生態や豆知識などを紹介していきます。実用的な知識だけでなく生き物好きな人間の私的な関心も多いかも。どうぞお気軽に読んでください。



巣箱から顔をのぞかせるムササビ

vol.3

空飛ぶ夜の忍者
ムササビ

2月に入るとすぐに立春を迎えますが、季節はまだまだ冬本番。私が勤める長野公園はこの時期、毎朝氷点下近い気温になります。また、この時はインフルエンザが最も蔓延しやすい時期でもあるので皆さま体調にくれぐれもお気を付けください。

さて、今回は愛くるしい姿をしながら凄いの飛翔能力をもつ哺乳類・ムササビをご紹介します。

ムササビ（ホオジロムササビ、学名：Petaurista leucogenys）は齧歯目リス科リス亜科ムササビ属に属する大型の夜行性リス類です。本種は日本にのみ分布する日本固有種で本州・四国・九州に局地的に分布しています。平地から山地にかけてのやや鬱蒼とした森林帯に生息していますが、詳しい分布域はほとんど解明されていません。大きさは頭胴長・尾長ともに30～40cm前後で合わせて全長50～80cmと非常に大型で日本在来種の齧歯目（ネズミの仲間）としては最大級です。体色は全体的に褐色～茶褐色で顔の横にある白いラインが特徴です。食性は主に食植性で様々な植物の葉や種子、果実などを食べて生活しています。



巣箱からでるムササビ

繁殖期の雌は昆虫や鳥の卵などを捕食することもあります。また、本種はほぼ完全な樹上生活者で地上へは滅多に降

りません。樹木の樹洞や巣箱に樹皮などの巣材を搬入して営巣場所とするほか、住宅の屋根などに巣を作ることもあります。

本種の最大の特徴は空を飛ぶこと。飛ぶといっても鳥類やコウモリのように飛翔するわけではなく、皮膚とよばれる部分を使って滑空します。この滑空によってムササビは樹々の間を自由に行き来するので、空を飛べる哺乳類といえばコウモリが代表的ですが、コウモリ以外では本種をはじめとする滑空リス類とヒヨケザルぐらいで、非常に珍しい生態といえます。

近年は開発による生息環境の破壊や生息地の分断化によって本種は全国的に減少しつつあり、大阪府下では準絶滅危惧種（NT）に指定されています。

長野公園では前々回（140号）で紹介したフクロウとともにムササビ類を環境保全のシンボルとし、巣箱を設置して生息場所を提供することで、生息環境の保全に努めるとともに南河内地域における本種の分布生態の解明に向けて調査研究に取り組んでいます。長野公園にお越しの際、運がよければ巣箱から顔を出すムササビを見ることができるともかもしれません。

大阪府営長野公園

〒586-0051 河内長野市末広町 581-1

TEL: 0721-62-2772 FAX: 0721-62-2810

https://www.toshi-kouen.jp/staticpages/index.php/nagano_top

安田 壽斗(やすだ ひさと)さん

全国規模で福祉事業を展開する株式会社の採用係に就く、西成地域で生まれ育った青年。6年前は地元で就労支援の仕事をしながら、地域の活動にも参加していた生え抜きです。趣味はダーツ、野球、そして最近ゴルフを始めたそうです。

新年を迎えると同時にめでたく入籍、新居で新しい生活をスタートさせました。これからも生まれ育ったこの地域で自分に出ることを探していきたいそうです。今回は地元で根付いてほしい「ホープ」なおとなりさんをご紹介します。



たぐの 3くふうたま

昼

間

なじむ

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

「シェア」って豊かな時代の産物に見えるけど、一周まわって「勿体ないから皆で買って必要な時に使えたらいいね」と意識できる。一人一台のパソコンや携帯で大抵のことが完結してしまうこの時代、より自由に使うのに数があるに越したことはない。が、結果今は「シェアの時代」なのだそう。僕は風呂無し・トイレ共同の文化住宅に住み、プライベートを最小限に、生活の多くを「おおよけ」な部分に委ねてみた。隣人たちの距離感はうまく全体でなじむイメージで、さほど悪くない。

「無いから仕方なかった」という時代とは事情が違う。けど、たとえば銭湯なんかは、地域の皆で色んな種類の大きな風呂をシェアしていると思えば納得できるし、トータルでみると財布に優しいのかもしれない。文化住宅も「まち」全体で捉えると天然のシェアハウスである。

退屈しないよう「当たり前障りのあること」を求めてきたので、トラブルが起これば個人的には大歓迎。そんな出る杭も引きの構図で眺めれば周りの景色に溶け込んだ点景の一つ。トラブルも「シェア」すれば地域にとけて馴染んでゆくはず。お隣さんを知る良い機会かもしれない。

(安田拓也)



いい塩梅(あんばい)に並んだ天然駐輪場



【安田拓也】正月は、家族で親戚の子が持ってきたゲーム機のカラオケで、やたらと盛り上がり、賑やかな1日を過ごした。親戚の子に「いつのまに、大きくなって〜」って、僕もおっさんだ。



【西田吉志】ゆ〜とあいでの何気ない貸室の問い合わせや利用。ゆ〜とあいのコンセプトを意識して対応すると、そこからイベントの出演、講座の講師、ボランティアなど出番やつながりづくりにつながるのです。



【寺島史規】新年1発目のイベントとしてゆ〜とあい3周年を開催した。多くの方々の支えもあり無事に終えることができ本当に感謝している。これからも、誰もが気軽に参加でき楽しめることを考えていきたい。



【谷口円】今住んでいる家との付き合いは、もう10年以上。歴代8軒目の家ですが、気づけば人生史上1番長く住んでいる家になりました。部屋の窓がすごく気に入っているのです。

「社会を知って」「社会に踏み出す」
そんな L's College Plus の取り組みを
紹介していきます。

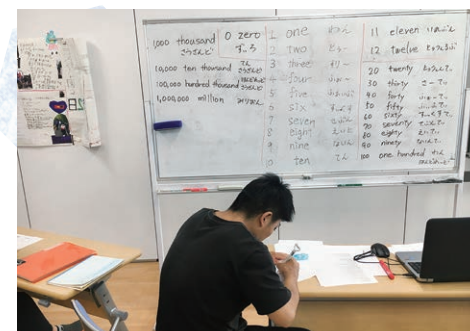
vol.10

英語であいさつ

います。

街を歩いていると日に日に外国人観光客が増えていることに気づきます。東京ではオリンピック、大阪では万博が開催されることが決まり、いよいよ海外の多くの方と交流する機会が増えていきそうな予感がしています。これから先、いろいろな場面で外国の方と出会う機会があると思いますが、そんな時に気軽に「ハロー！」と挨拶できたらいいな、と思っています。

(文 松尾 有希生)



古着屋「りぶら」で実習をさせてもらっていると、時々外国人のお客さんが来店されます。ただでさえ接客の練習中なのに、外国のお客さんにはどう話しかけていいかわからずに緊張が増してしまいます。そんな時に接客はできなくても、挨拶ぐらいはできるようにしようと、英語の講座を実施しています。

まずは知っている英単語を発表してもらいましたが、普段は英語と意識せずに使っているためか、いざ英単語と言われても思いつきません。それでも「好きな食べ物は何か？」「ハンバーグ！」「ピザ！」「その服は何色？」「ピンク！」「レッド！」「ディズニーランドのマスコットは？」「ミッキーマウス」「マスコットもそう（英語）ちゃん？」など、ちょっとしたきっかけでどんどん出てきました。英語というと少し難しく考えていましたが、日常生活の中に英語がたくさんあることに気付いて、ちょっと身近なものに感じることができました。そして今では日付や曜日を英語で言えるようになってきて

いま『水平社論争の群像』を読んでいる。98年前の結成時に掲げられた「水平社宣言」は素晴らしい感動を覚えるほどで、この運動が最高のスタートを切ったことは間違いない。しかし、そこから紆余曲折が生まれる。実際は運動に参加した人々の様々な思いや時代背景により、「正しい運動とは何なのか？」「どうすれば差別は無くなるのか？」をめぐる対立しつつも時代の流れの中で運動を前進させてきたのだと思う。共産主義に活路を見出そうとするグループや当事者運動として設立当初の理念を全うしようとするグループ。融和運動や政治的な策動に負けないように運動を進めようとする意識。労働運動や社会運動との連携など、当時から理解ある多くの人たちとの連帯運動などを繰り広げたようだ。

間もなく100年を迎える我らの運動もまた、時代の大きなうねりの中で変化を求められているように思う。そのためには、様々な人の思いや社会の変化をとらえた運動に対する論争をもっと活発にすべきだ。西成支部も頑張ろう。

(寺本良弘)

皮算用
胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



西成中華街構想に想うこと



新年早々、「西成に中華街」が話題になっている。場所は動物園前商店街を中心にした南北に細長い地域で、現在でも中国人経営のカラオケ居酒屋が林立し、すでに中華街と化していると言う人も多い。中華街構想の発信元は大阪華商会で中国領事館が後押ししているようだ。背景に、25年大阪万博、22年星野リゾート、さらには今年のG20大阪開催がある。ボク達はずっと昔から西成の活性化、まちづくりに取り組んできたが、正直このスピード感には舌を巻く。

問題は大阪市の対応だ。この間、市は未利用市有地を売りまくってきた。芦原橋駅周辺はまるで様変わりしたし、長橋地区でも市有地が建売住宅に転売された。住民には説明らしい説明はなされなかった。これで良いのかと戸惑うのは当然だ。振り返って、大都市というのは住民の思うようにはなりにくい。それはそれで仕方ないかもしれないが、自治体までも無抵抗なのは困る。住民には「領有権」のような権利があるはずだ。西成区民は多少頑固なほどの領有権を主張して良いはずだ。

では、何を主張するか。一つは決定までのプロセスだ。住民の共感を得られるまで開発はないとの厳しい対応が必要だ。二つは、居住環境保護、最低でもゴミ処理計画は示してもらわないと困る。ボク達はかつて牛骨粉再処理工場新設の際、「ゼロエミッション」というプランを提案した。中華街構想でも食品残滓物を再利用するなど廃棄物を地域に放出しないプランが必要だ。三つは地域雇用問題、それも就労支援のある雇用計画だ。ここは西成特区構想という先発計画を尊重すべきだ。四つは共生のルールづくり、民泊も悪いことではないが、ルールが不十分なままだ。ルールは移住者が守るべきこと、先住者が心がけること、そして双方で創る新しい価値にも言及すべきだ。大阪市は西成区を「共生先端地域」と位置づけて「共生のまちづくり条例」のような効力のあるルールを定めるべきだ。最後に五つめ、それは子どもの教育環境だ。既に長橋小学校など西成区の子童減少は深刻だ。多文化で特色ある教育環境づくりに、子育て世帯、何より子ども達の

まちづくり参加が必要だ。

ちょうど統一地方選がある。

候補者が語り合って「公開討論会」なんてやってくれたら有意義だと思う。選挙とは別の、子ども達によるラウンドテーブルという企画は面白いと思う。

ボクは中華街構想に反対ではない。日本はすでに移民国家、大阪市はその先端都市、西成区はさらにその先のモデル地域でありたい。懸念するのはルールがないこと、特に先住者権利が不明なこと、もっと煎じ詰めれば子どもの権利が不在なことだ。これが「総合区」なら、もっと自主権を主張したいところだ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これから「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 沖繩の県民投票（2月24日実施予定）が話題になっている。大阪でも府下の全市町村で住民投票をすれば、都構想も賛成多数で実現するのではないだろうか。えっ、ダメ？



[山村裕太] 今年は友人と久しぶりに住吉大社に初詣に行きました。初詣といえおみくじ！みんな楽しく引きましたよ。凶。すぐ真顔になりました。

地域の縁を心でつなぐ

松崎 心 心の時間

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは変化できる者である。」を思いました。「変化」という言葉に情しみを乗り越えて行く一筋の光りを感じたからです。

ある先生から「失った物に目を向けて嘆くよりも、今、有る物に目を向けて最大限に活かす生き方をしよう」と学びました。まさに状況よりも「ころ」の変化によって苦しみを乗り越えて行く大切な教えです。人生には「上り坂、下り坂、まさか」の三つの坂があると言いますが、「まさか」は突然やってきます。柔軟な「ころ」を持つ人こそ「まさか」に対応し変化しながら生き残ることができるのではないでしょうか。

松向寺 通法

三〇代の若者が、突然倒れて身体が不自由になりました。ご家族はこの若者の回復を願い、良い病院があると聞けばどこへも行き、御利益があると聞けば遠くの神社仏閣に行つてはお参りするそうです。もちろん私も回復を願っていますが、願った通りの結果になるとは言えません。そんな時、ダーウィンの名言

娘たちから経験の強みを教えてもらった

去年12月に次女が女の子を出産。結婚して兵庫県に住んでいるので、2月中旬まで里帰り、一緒に過ごしている。長女の子に続いて、二人目の孫になるのだが、自分の子育てでも、お風呂入れやおむつ交換をほぼしなかったで、これまで同様に何の役にも立っていない。

ただし、うちの三女にはいい経験になった。今から約20年前、三女が産まれた時、長女は中学校3年生、次女が小学校6年生で、三女のお世話をしてくれていた。そして今、次女から、ミルクをあげたり、おむつ交換を頼まれて躊躇している三女に、次女は「私らは、中学生の時にできてんから、20歳のあんたがでげへんわけないやろ？」と言う。そう言われた三女は、ドキドキはしてたみたいだが、やってみると何とかなるみたいで、今では安心して任せられるようになった。

理屈よりも経験が解決することはたくさんあるんだろうと感じた。そんな経験やつながりを持てる取り組みを始めたい。

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



ナビ編集長 寺嶋公典

ゆーとあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆーとあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

ナビ2月号(vol.144)

発行日:2019年2月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1156

E-mail:info@nice.ne.jp

url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典

編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、

寺島史規、西田吉志、安田拓也、山村裕太、

若松司(あいうえお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

